

## 第50回 SGRAフォーラム プログラム

### 第50回 SGRA フォーラム in 北九州 《青空、水、くらし-環境と女性と未来に向けて》

日 時： 2015 年 11 月 14 日（土）午後 1 時～午後 5 時

会 場： 北九州市立大学北方キャンパス C202 教室

主 催： 渥美国際交流財団関ログローバル研究会（SGRA）

共 催： 北九州市立大学

#### フォーラムの趣旨：

北九州市は大気汚染や水質汚濁など 1950 年代、60 年代の経済成長に伴ってもたらされた深刻な公害を克服し、今日では「環境未来都市」とも呼ばれる礎を築いたのは、子どもの健康を心配した母親たちでした。「青空が欲しい」というスローガンを掲げ、自発的に大気汚染の状況を調査し、その結果をもとに企業や行政に改善を求める積極的な運動を起こし、それが公害克服と環境再生の原点となったと同時に女性（母親）の社会参加の象徴ともなったのです。この運動の特質の一つとして、「反対運動」や「告発」ではなく、母親たち自らの活動により、女性たち自身の「意識化」と企業や行政の「意識化」を促し、公害克服や環境改善の方向付けを与えたことがあげられます。今回のフォーラムは《青空、水、くらし-環境と女性と未来に向けて-》と題して、北九州市のみならず、中国、韓国などの事例をもとに、深刻化する環境問題に直面する女性や母親の意識の変化や社会参加の試みを考察ついて議論します。

今回の第 50 回 SGRA フォーラム in 北九州は、2016 年 9 月 29 日～10 月 3 日に開催される、第 3 回アジア未来会議のキックオフイベントとして開催します。

#### プログラム：

総司会：高 偉俊（北九州市立大学国際環境工学部教授/SGRA メンバー）

#### 13:00～14:30

開会のあいさつ 今西淳子（渥美国際交流財団関ログローバル研究会（SGRA）代表）  
近藤倫明（北九州市立大学学長）

#### 【事例発表】

- 事例発表 1.（日本）：「青空がほしい」運動に学ぶー現在に問いかけるものー  
神崎智子（アジア女性交流・研究フォーラム主席研究員）
- 事例発表 2.（中国）：変わるのか、人々の意識ー中国の母親の環境意識の変化と活動ー  
斉藤淳子（北京在住ライター）
- 事例発表 3.（韓国）：絶え間ない歩みー韓国 YWCA の環境活動と女性の社会参加ー  
李 允淑（イ・ユンスク）（韓国 YWCA 運動局部長）  
ーコーヒープレイクー

#### 14:45～17:00【オープンフォーラム】

モデレーター：田村慶子（北九州市立大学法学部・大学院社会システム研究科長）

ゲスト： 小林直子（NPO 法人里山を考える会）

14:45～16:45 論点整理：田村慶子（同上）

発表者を交えたフリーディスカッション

総括（田村慶子）

16:45～17:00 閉会挨拶と第 3 回アジア未来会議に向けて（高偉俊）

#### 17:00～18:30【懇親会（簡単なティーパーティー形式）】

使用言語：日本語

## 《講師・ゲストプロフィール》

神崎智子（かんざきさとこ）アジア女性交流・研究フォーラム(KFAW) 主席研究員

1977年、北九州市役所に入職。アジア女性交流・研究フォーラム国際情報課長、北九州市立男女共同参画センター副所長、北九州市教育委員会人権教育担当部長、北九州市立大学ひびきのキャンパス担当部長等を歴任。2014年からKFAW研究員。現在、地域社会における女性団体の活動をテーマに研究。著書『戦後日本女性政策史―戦後民主化政策から男女共同参画基本法まで』ほか。

斎藤淳子（さいとうじゅんこ）北京在住ライター

米国で修士号取得後北京在住。中国人民大学に国費留学、在北京のジャイカ（JICA）や日本大使館を経て、中国社会全般に関し調査研究をもとに執筆。朝日 RONZA、読売新聞、時事速報、オルタナ、PUNTA、組合ひろば、連合、中国誌・瞭望東方週刊などに寄稿。共著編に『在中国日本人108人のそれでも私たちが中国に住む理由』、『日中対立を超える発信力』など。グローバルプレス会員、二児の母。

李 允淑（イ・ユンスク）韓国 YWCA 運動局部長

1992年、韓国梨花女子大学で社会学を学び、卒業後、教育雑誌の取材記者。

1997年、日本の反原発運動グループや市民運動グループと交流しながら、大阪市立大学大学院の修士過程で環境社会学を学ぶ。帰国後、エコフェミニズム研究者のグループ「夢みるミミズの会」で女性環境運動の研究や実践活動を行い、2012年から、韓国 YWCA で、脱核運動や様々な環境運動を担当。

小林直子（こばやしなおこ）NPO 法人里山を考える会職員

北九州市門司区出身。高知大学農学部森林科学科卒業。林業高校の講師として勤務した後、JICA 青年海外協力隊に参加。東アフリカ・ウガンダ共和国にて2年間、エコツーリズムのアドバイザーとして現地ガイド養成や地元婦人グループ等への環境教育活動を実施した。帰国後、北九州市のNPO中間支援センターの職員を経て、NPO法人里山を考える会に入職。現職では、市内で行われる環境事業のツアー企画・運営やまちづくり事業に携わる。

## SGRA とは？

渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (Sekiguchi Global Research Association) の略称です。

SGRA は世界各国から来日して、日本の大学院から博士号を受けた知日派の外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化に立ちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページなどで発信しています。

SGRA は特定の領域、専門に偏らず、広く社会全般の課題を対象とする国際的かつ学際的な活動を狙いとして、良き地球市民社会の実現に貢献することが SGRA の目標です。

## 沸騰するアジアの声を世界へ！ 第3回アジア未来会議 in 北九州 「環境と共生」

2016年9月29日（木）～10月3日（月）

アジア未来会議は、国際的かつ学際的なアプローチを基本として、グローバル化に伴う様々な問題を、環境、政治、教育、芸術、文化などのあらゆる次元において多面的に検討する場を提供することを目指しています。この会議は、渥美国際交流財団関口グローバル研究会（Sekiguchi Global Research Association：SGRA）が主催する、日本留学し現在世界各地の大学等で教鞭をとっていらっしゃる方々やその学生や市民が一堂に集まる交流・発表の場です。

バンコク、バリに続く第3回は北九州市立大学との共催で、北九州市の様々な研究機関や国際交流機関の協力を得て開催します。

テーマ：「環境と共生」

会期：2016年9月29日（木）～10月3日（月）（到着日、出発日を含む）

会場：福岡県北九州市 北九州国際会議場、北九州市立大学北方キャンパス

規模：基調講演シンポジウム 500名、パネルセッション 300名、現地参加者 50～100名

主催：公益財団法人渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共催：北九州市立大学、北九州市

後援：外務省、文部科学省（予定） その他

詳細はホームページ（日本語、英語対応）をご覧ください。

<http://www.aisf.or.jp/AFC/2016>